

2014年12月02日

～森林資源の利活用の推進・環境にやさしいエネルギーの創出を目指し～
青森県八戸市でのバイオマス発電事業会社へ出資参画

住友林業株式会社（社長：市川 晃、本社：東京都千代田区、以下「住友林業」）は、住友大阪セメント株式会社（社長：関根 福一、本社：東京都千代田区、以下「住友大阪セメント」）及び東日本旅客鉄道株式会社（社長：冨田 哲郎、本社：東京都渋谷区、以下「JR東日本」）と共に、未利用の林地残材や間伐材等を利用したバイオマス発電会社である八戸バイオマス発電株式会社（以下「新会社」）を合併にて設立し、青森県八戸市においてバイオマス発電事業を行うこととなりましたのでお知らせいたします。

本事業は、新会社が八戸港付近の工業用地に、発電規模約12MWのバイオマス発電施設を建設し、再生可能エネルギー固定価格買取制度^{※1}を利用した発電事業を行うものです。

燃料の木質チップは、主に青森県三八・上北・下北地域の間伐材や製材端材、周辺鉄道沿線の鉄道林の間伐材などを地元関係者の協力を得ながら集荷する他、一部パームヤシ殻も使用する予定です。

本事業を通じ、環境にやさしいエネルギーの創出が図られるとともに、該当地域の森林環境の整備が促進されるなど林業振興にも大きく貢献するほか、雇用の創出にも寄与するなど地域への貢献が期待されます。

住友林業グループは、2008年5月にインドネシアで同国初の木質バイオマス発電を開始し、日本国内では、2011年2月より神奈川県川崎市で建築廃材を主燃料とした、発電規模33MWの都市型バイオマス発電所（川崎バイオマス発電（株）^{※2}）の営業運転を開始しております。また北海道では、紋別市で間伐材など林地の未利用木材を主燃料とする発電規模50MWの森林型バイオマス発電所（紋別バイオマス発電（株）^{※3}）の建設を2016年12月の営業運転を目指して着手しています。また、苫小牧市においても、林地の未利用木材を100%燃料として利用する発電規模5.8MWのバイオマス発電所（苫小牧バイオマス発電（株）^{※4}）の建設を2016年12月の稼働を目指し、2015年5月より着工予定です。八戸市での事業参画は、当社グループにおいて国内4番目となります。

当社グループは、これまでの木質バイオマス発電事業の経験を活かし、大小さまざまな規模の発電事業に取り組み、地域の特性や諸条件に適した環境エネルギー事業の展開を目指しています。今後もさらなる森林資源の付加価値向上を図り、環境に配慮したエネルギーの安定供給に貢献してまいります。

※1 再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を用いて発電された電気を、一定価格で電気事業者が買い取ることを義務付けた制度

※2 住友共同電力（株）53%、住友林業（株）34%、フルハシEPO（株）13%の出資比率による共同運営会社

※3 住友林業（株）51%、住友共同電力（株）49%の出資比率による共同運営会社

※4 三井物産（株）40%、株式会社イワクラ20%、住友林業（株）20%、北海道ガス（株）20%の出資比率による共同運営会社

■新会社概要

名称	八戸バイオマス発電株式会社
所在地	東京都千代田区（※建設工事着手時に青森県八戸市に移転予定）
資本金	300百万円
比率	住友林業 52%

	住友大阪セメント 30%
	JR東日本 18%
事業内容	バイオマス発電による電力供給事業
使用燃料	林地の未利用木材、製材端材、周辺鉄道林の間伐材、パームヤシ殻等（年間約13万トン）
主要設備	流動層ボイラー、蒸気タービン発電機
発電規模	発電端出力：約12MW（送電端出力：10.5MW）
年間発電量	約85,000MWh（一般家庭約17,000世帯分の年間使用電力量に相当）
建設スケジュール （予定）	着工：2015年 6月 竣工：2017年10月 営業運転開始：2017年12月
設立年月日	2014年10月28日
三者 ^{※5} 協力協定締結 日 （予定）	2015年1月16日

※5 青森県・八戸市・八戸バイオマス発電株式会社

以上

《リリースに関するお問い合わせ先》
住友林業株式会社
コーポレート・コミュニケーション室 森永・飯塚
TEL：03-3214-2270